

犬山城三階

3階に続く階段は、城の中で最も急な、50度の角度です。防御者が敵を蹴飛ばすのを助けるために建てられたと考えられています。このスペースに含まれる部屋は、唐破風部屋（破風の間）として知られています。低い天井は、犬山城の天守が建てられたときの屋根裏部屋としての本来の目的を示しています。成瀬正成（1567-1625）が所有した後に造築されたと言われています。彼は、弓形の中央のアーチを備えた起伏のある唐破風を追加したと言われています。これは、城の外観から見ると印象的なデザインです。